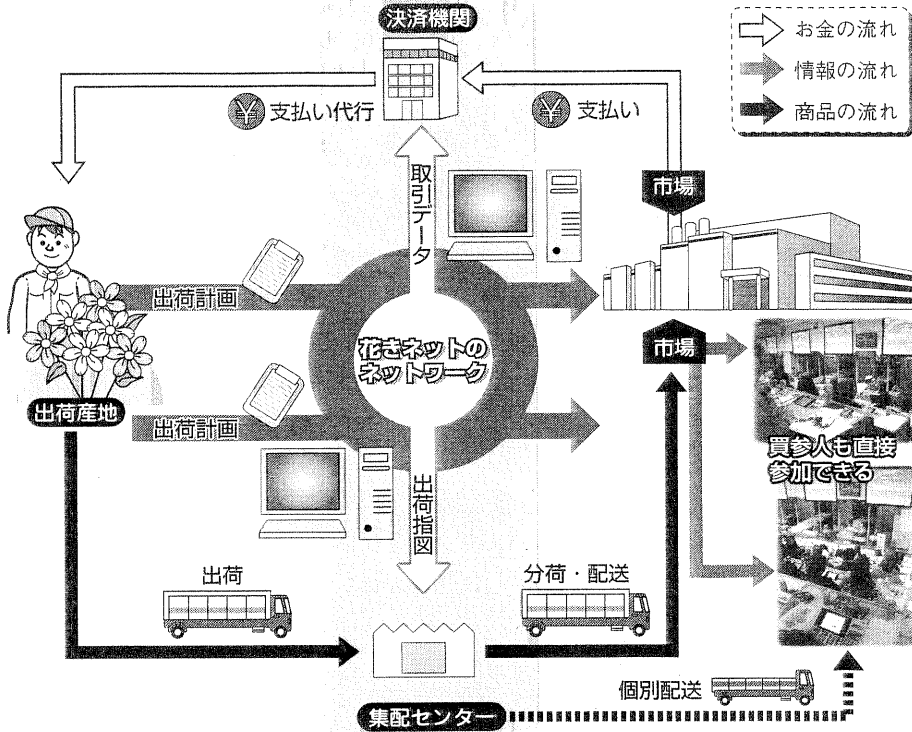


日本農業新聞

花きネット首都圏センターシステム



花きネット 首都圏物流センター 来月から取引本格化

花きの電子商取引を運営する花きネット(東京都港区)が28日、10月から首都圏物流センターを稼働させると発表した。産地と小売りの情報を収集、仲介しながら、最適物流を実現していく。大手卸への集中が進む花き流通で、中規模の販売ルート支援に乗り出す。

同ネットには、全国13市場と約500の買参人が加盟している。これまでは、市場と買参人が中心となってネット取引を進めてきた。今回は、産地も参加して、生産から販売までのネット取引を本格化する。

全国の産地会員からの出荷情報を、首都圏の会員卸十数市場に流し、主に予約相対を行う。出荷物は、新しく稼働する東京都大田区の首都圏物流センターを経由する。同ネットの手数料は6%。

ネット取引の課題とされる物流は、配送先を首都圏1都6県の卸に限定することで解決した。また支払いサイトについて

は、産地には10日後払い、市場には30日後払いとし決済機能を充実した。「中堅産地や市場、小売りの情報の受発信を支援することで、花業界の活性化を目指したい」と片桐良行社長。

同社は2001年から花業界に特化した電子商取引をスタート。04年度は30億円弱を売り上げ、

05年度は40億円弱の見通し。国内市場の花き取扱一円。高全体は約5000億